

学校図書館における広報機能の活用

社会的認識の形成の視点から

The promotion of public relations in a school library

- From a viewpoint of the social awareness -

学籍番号：201321647

氏名：萩原 咲恵

Sakie HAGIWARA

戦後間もなくから学校図書館の利活用における重要性が訴えられてきたが、依然として学校図書館の利活用についての認識は高まらない。本稿では、こういった背景を踏まえ、学校図書館の広報の現状と課題を明らかにし、特に、ウェブサイトを利用した広報の効果を考察することを目的として文献調査、学校図書館ウェブサイトの事例調査、聞き取り調査による研究を行った。文献調査では、学校図書館が抱えてきた課題、広報をウェブサイトで行った場合の利点や問題点等を検討し、学校図書館広報におけるウェブサイトの利用は新しく、広報の形態として位置づけられていないことを明らかにした。学校図書館ウェブサイトの事例調査では、23 件の学校図書館ウェブサイトの質の評価を行った。その結果、学校図書館ウェブサイトは、(1)「学校図書館の公開情報」の観点からは、学校図書館が発信すべき情報を十分に公開できていないこと、(2)「ウェブサイトユーザビリティ」の観点からは、利用者に対する配慮や工夫が不足しており、利用者が使いにくいものとなっていること等から、現在の日本の学校図書館ウェブサイトは、その充実度が低く、広報としての役割を十分に果たせていないということが明らかになった。しかし、東京都調布の 5 件の公立小中学校を対象に行った聞き取り調査からは、学校図書館担当者は、ウェブサイトを利用した広報に対して否定的な意識を持っているわけではなく、むしろ、学校図書館広報にウェブサイトの効果に期待する姿勢は積極的であった。また、実際の学校図書館広報では、印刷物によるアナログ形態の広報内容は、学校図書館の利用者にあまり読まれていないという課題も明らかになった。

これらの調査結果から、学校図書館はアナログ形態の広報のみでは、社会的認識を高めることには限界があり、学校図書館ウェブサイトの活用が必要であるといえる。

研究指導教員：平久江 祐司

副研究指導教員：大庭 一郎